

# 入院という旅ありて 春の雲、退屈と読書

田所 金久



### 入院という旅。いやな病院の窓

高校勤務38年、予備校勤務17年の77才までの55年間は皆勤であったが、80才になると入院生活が始まった。表題に掲げた渡辺徳治の俳句のような生活が始まった。膝と腰へのばい菌汚染による近森病院への救急車による入院とひざの手術などで一年間の入院。医療センターで診察してもらった。「あなたと同年齢の高倉健も永六輔も亡くなった。もう高齢なので手術は必要ないのではないですか」と言われた。白内障の手術でレンズを入れる時も「高齢者なので、よく見えるレンズは必要ないでしょう」と言われ、学生時代の卓球練習の後遺症で膝の軟骨がなくなり痛みがひどい

時も、高齢と心臓病なので手術はできないと言われた。米寿を迎え高齢者としての自覚が求められた。次の胃腸にあるポリプが破れての内出血で貧血、心不全による土佐市民病院への入院、そして今回の転倒による太ももの骨折による70日の入院と病院生活は続いた。「田所先生には治ってもらいたい」と語り合う看護師さんの声を聴いたり、顔を合わすと握手をしたり、好きな本を語り合うなど看護師さんとは親しくなった。そして優しさを知った。それとともに看護師さんなどケア労働にかかわる人の労働の厳しさを知った。私は毎日、本などを持ってきてもらい貴重な時間を持たせて、看護師さんたちにその時間はないだろうと思った。

### 病室の窓はつらい古の

#### 飛花落葉見つめ縛ける

こんな歌にも出会ったし、結核での入院のため外出が認められない啄木や子規も外の風景を見ながら、病院の窓が憎いと述べている。  
**読むこと考えること話し合うこと**  
3月26日、朝日新聞の「声」欄に「我ら高齢者の『文化』死守しよう」という投書があり、戦後民主主義と平和と民主主義を謳歌してきたが、技術革新と果てしなき欲望の波が押し寄せる現代社会の中、人々は読み考える文化を放棄し、フェイクニュースや差別が他人を傷つけている。だが私たちは戦後民主主義を謳歌してきた。読み、書き、対話し、考える文化を手放すことはできない。もはや少数派、残された時間と生命はあといくばく、それならなおのこと、この大切にしてきた文化をまもっていかないと。  
この文章では、退屈な入院生活で読み続けた本の主な本を紹介し、皆さんと対話を続けた。

### 「こうして生まれた日本の心」

(一)四季の折々に

春から夏へ

宗谷岬 うれしいひなまつりからたち花 朧月夜 みかんの花咲く丘 夏の思い出  
2 秋から冬へ  
ちいさい秋みつけた たきびおよげーたいやくくん 北風小僧の寒太郎 雪山賛歌

(二)日本の心

1 詩情を誘う  
桜員の歌 あざみの歌 この道 牧場の朝 かなりや森の水車 椰子の実  
2 伝統の歌  
黒田節 炭坑節 五木の子守歌 芭蕉布 安里屋ユンタ

(三)時代とともに  
1 戦火の中で  
北上夜曲 惜別の歌 もすが枯れ木で 南国土佐を後にして 別れの曲 長崎の鐘  
2 戦後の復興期に  
リンゴの唄 花の街 山小屋の灯 ガード下の靴磨き  
ぞうれしやがやってきた

3 民主化、経済成長へ  
青い山脈 赤い靴 今日の日  
はさようなら ヨイトマケの

### 唄 男はつらいよ 乱れ髪

(4)生きるための闘い

1 労働、市民運動から  
がんばろう 沖繩を返せ あかつきの空に フランシーヌの場合 沖繩今こそたちあがろー 風に立つライオン  
2 輝いて生きるために  
わが大地のうた 歌って愛して 戦車は動けない 自転車にのって 私の愛した歌  
風の中のレクイエム 青い空は 島唄 さとつきび畑  
憲法音頭 地球の9条もしくは南極賛歌

この本の表紙のカバーは美しく手に取りたくなる。1巻は霧に濡れた鮮やかな満開の桜、2巻は赤系統から青系統に色を変えた折り鶴。なお3部作の心の歌よ第三部「歌から見える世界」はまだ読んでいない。

歌は人生と時代の産物であり、歌を追求すれば日本と日本人が見えてくる。日本の歴史と文化が見えてくる。  
**車いすに座り、読書の時間**  
京極夏彦「巷説百物語」と宮部みゆき「3鬼」  
江戸時代、くせ者ぞろいの悪党の一味が、公に裁けぬ事

### 件を金で請負い、幻術などあ

やかしの術を使い解決していく妖怪時代小説「続」「後」「前」「西」「遠」と6冊のシリーズで、今年度の吉川英治文学賞受賞  
各本、七つ程度の短編からなり、500ページを超えどっしり重い本。これを入院中、車いすに座り、読み続けた。入院中は推理小説を沢山読んだが、一番ポリウムがあり、最後に読んだのがこの作品であった。彼女については、お世話になった若理学療法士もよく知っており、対話が弾んだ。

### 「中華世界」の学びはじめ

入院中に読んだのは、岩波講座「世界歴史」第5巻「中華世界の盛衰」であったが、6巻「中華世界の再編とユーラシア東部」、7巻「東アジアの展開」も手にはいったので、これから取り組む予定である。  
**その他の取り組み**  
教育にまだ未練があり、「学問としての教育学」（日本評論社）に学ぶ。  
新書では中公新書「サウジアラビア」「古代中国の24時間」、光文社新書「鎌倉幕府

伊藤千尋の歌の成り立ちを味わいなおす「心のうたよー」3部作

「心の歌よー」・・・日本人の「故郷」を求めて  
「こうして生まれた日本の心」・・・心の歌よー II

日本人の「故郷」を求めて「心の歌よー」  
伊藤千尋 元朝日新聞サンパウロ支局長など 凛としたアジア 凛としたチャップリン 9条の会世話人 この本

日本人の「故郷」を求めて「心の歌よー」  
伊藤千尋 元朝日新聞サンパウロ支局長など 凛としたアジア 凛としたチャップリン 9条の会世話人 この本

日本人の「故郷」を求めて「心の歌よー」  
伊藤千尋 元朝日新聞サンパウロ支局長など 凛としたアジア 凛としたチャップリン 9条の会世話人 この本



写真右 心の歌よー 第1巻  
写真左 こうして生まれた日本の心 心の歌よー 第2巻

のために取材を始めて12年  
序章 日本人の歌  
日本人をひきつける「赤とんぼ」

第一章 人間愛  
1 母よ、父よ、子よ「母さんのうた」「上を向いて歩こう」「小さな木の実」

2 兄よ、妻よ、夫よ「涙そうそう」「喜びも悲しみも幾年月」「瀬戸の花嫁」

第二章 生きる  
1 生きる「北国の春」「星影のワルツ」「ゴンドラのうた」

2 前をおく青春「神田川」「なごり雪」 真理に生きた女性の哀歌のこもる「平城山」

第三章 日本の伝統と風景  
1 伝統美の力「桜」「女ひとり」「南部牛追歌」  
2 郷愁の四季「故郷」「ちようちよう」「茶摘」

終章 苦悩から歓喜へ  
「幸せなら手をたたこう」「第九交響曲・歓喜の歌」

高退協ニュースに投稿を。  
高退協ニュースが活発な交流の場となるよう積極的な投稿をお待ちしております。  
① 郵送 〒780-0850  
高知市丸ノ内2丁目1-10 高知城ホール高教組気付  
高退協 ニュース担当係  
② メールで送信  
kkoutaikyou@gmail.com

